

工大|大|広|報

No.263

Autumn 2011

2011年11月30日発行
(年4回発行)



第36回 工大祭「GIFT」

「地域復興のための 共同プロジェクト」中間発表

表紙写真: 大学祭八木山キャンパス屋台群



第36回 工大祭「GIFT」

日時:2011.10.15(土)・16(日)10:00~15:00

会場:八木山・長町キャンパス

今年の工大祭のテーマである「GIFT」には、会場に来ていただいたお客様に「心の贈り物(GIFT)」を贈り、来てよかったと思われるような工大祭にしたいという学生の思いが込められています。

八木山・長町両キャンパスを会場に開催した今年の工大祭は、笑顔の絶えない、元気をいっぱいもらえるお祭りになりました。



大学祭を振り返って

かさい しげのぶ
葛西 重信
学生部次長
共通教育センター 教授



今年度の工大祭は、震災に負けず暖かい気持ちを届けようと大学祭実行委員会がテーマを設定しました。八木山キャンパスでは、ここ数年開催されなかったアーティストによるライブ、長町キャンパスでも開催したゲストライブなど初の試みが多く見られる工大祭となりました。実行委員は、例年にも増して苦労した点が多々あり成長したと思います。来年も反省点を踏まえてさらなる楽しい企画に取り組んで発展してほしいと願っています。

大学祭を終えての思い

にしづか ましゆき
西塚 佳恭
大学祭実行委員長
安全安心生活デザイン学科 3年



第36回工大祭「GIFT」は、皆さまのおかげで無事すべての日程を終えることができました。今年の工大祭は、八木山キャンパス・長町キャンパス同時開催ということで大変な試みでしたが、皆さまの協力もあり活気あるものになったと思います。今年も屋台・ステージ企画を始め、さまざまなイベントを用意させていただきました。「GIFT」いうテーマ通り、来ていただいたお客様に笑顔を贈ることができたのではないかと思います。

最高の思い出をつくることができ、嬉しく思っています。ご協力いただいた方々に実行委員を代表して、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

知能エレクトロニクス学科



学科屋台 内田研が「宮城魂～元氣一番だっぺ～」という店名でフランクフルト屋を、同じく宮下研が「宮下亭の手作りモロコシ天」というコーンの天ぷら屋を出店しました。

学科企画 学科学生会代表者を中心として「体感！エレクトロニクス！」という電子工作と人力による発電体験コーナーを企画・運営しました。

建築学科



学科屋台 許研究室学生を中心として、ワンタンの屋台を出店しました。手作り・食材の新鮮さが目玉で、多くのお客さんから安くて美味しいと好評をいただきました。

学科企画 震災復興に向けて、colorsを中心として「仮設+」のワークショップを実施しました。学生60数名、6チームで結成し、15日に岡田西町公園仮設住宅を調査し、新たなアイテムを提案しました。16日には建築家の審査講評により実施案が決まりました。例年では提案だけでしたが、今年は実際に製作して、仮設住宅に提供する予定です。被災者にお役に立てればと考えています。

環境情報工学科



学科屋台 ガスや電気がなかったら、さてどうやって食事を作りますか。身近な調理可能なエネルギーって？そんなときはソーラークッカーにお任せ。太陽熱をたっぷり浴び、身動きもせずフル稼働で調理。ピザを焼くなんて簡単、干物もOK！

「ソーラークッカー」での調理実演と料理を食べていただきました。

学科企画 今回の試乗会では乗車待ちが出る人気のセグウェイ。小さなバッテリーのわずかなエネルギーで動き、環境に優しく、災害に強いパーソナルトランスポーターです。試乗体験で、より環境への理解が深まります。

安全安心生活デザイン学科



学科屋台 「カレー屋たいちゃん」を出店し、キーマカレーと飲み物の販売を行いました。「地産地消」をテーマとして、登米など地元産の野菜や米を材料にしたキーマカレーは大変好評でした。

学科企画 長町キャンパスで「南三陸復興支援市」と称し、キーマカレーに加え、秋保、津山、登米から直送された農産物、加工食品、工芸品などを販売し、本学科の目標の一つである地域の活性化をアピールしました。これらの売上金の一部は、各地区への寄付金とする予定です。

情報通信工学科



学科屋台 佐藤研究室の学生を中心に、大きなタコの入った本格的なたこ焼の屋台を出しました。たくさん作るうちに、焼き手の腕はプロ級に！

学科企画 1895年にマルコーニが世界で初めて電波による通信の実験を行ったときに使った電波検出器（コヒーラ検波器）を作りました。アルミホイルなど、身近な材料で作ることができ、完成品をプレゼントしました。

都市マネジメント学科



学科屋台 今年は3年生が中心になりフリーマーケットをオープンしました。ぬいぐるみや、ビンテージもののジーンズ、ちょっと年代物の靴など、なかなか品揃えも豊富でした。売上金はすべて河北新報社を通じて被災地へ寄付することとなりました。

学科企画 東北大学大学院国際文化研究科教授、鈴木道夫氏の講演では、堀田正敦（江戸幕府若年寄）の本草学的博物学を中心に仙台藩とのかかわりを論じていただきました。日本人が持つ繊細さと観察力の豊かさを浮き立たせた講演でした。

クリエイティブデザイン学科



学科屋台 八木山・長町の両キャンパスで、「音楽」をテーマに学生がデザインしたTシャツとエコバッグを販売しました。

学科企画 学生がデザインした作品の販売と、食べ物屋台を出店しました。長町キャンパスの革小物・アクセサリー販売コーナーでは、その場でお客様からオーダーをいただき制作を実演しました。3つ出店した食べ物屋台では、海鮮塩やきそば、焼き鳥、フランクフルトなどがお客様の胃袋をつかみました。八木山キャンパスでは、赤青メガネをかけると3Dに見えるTシャツを販売し、大好評で売り切れました。

経営コミュニケーション学科



学科屋台 ソース焼きそば店を出しました。2年目で腕が上がり、「おいしい！」と評判になりました。価格設定を見直し、駄菓子のおまけをつけることでマーケティングを実践し、お客さんからも喜ばれました。

学科企画 ①共通教育センターと共催でTOEICコンテストを実施し、経営コミュニケーション学科1年生を中心に約60名が参加しました。②猿渡研+img@tohtechが映像編集と写真の自家現像とプリントのワークショップを共催し、金井研が研究紹介を行いました。

工大祭企画

コンサート企画

くまがい しょう
熊谷 翔コンサート企画長
安全安心生活デザイン学科 3年

今回のコンサート企画は、2日間とも天気が不安定な中で、たくさんのお客様が集まってくださいました。午後には天気にも恵まれて、笑いと音楽の力で工大祭に来てくれた方々が一つになれたのではと思います。皆さま、本当にありがとうございました。

ステージ企画

くまがい ゆうま
熊谷 祐麻ステージ企画長
建築学科 3年

今年は「GIFT」のテーマに合わせ、ステージ企画では、来ていただいたお客さまに心の贈り物を贈ることができました。

今年は両キャンパスでの開催で準備が大変でしたが、各企画で昨年以上の盛り上がりを見せ、大成功に終わることができました。

スポーツ企画

しぶや たけひさ
渋谷 武尚スポーツ企画長
知能エレクトロニクス学科 3年

スポーツ大会にはソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ミニサッカーの4種目に約500名が参加しました。今年は天候にも恵まれ、どの競技も熱戦を繰り広げていました。スポーツ大会を終えて真っ先に感じたのは、怪我などもなく無事終わったという安堵でした。来年もたくさんの学生の参加を期待しています。

パンフレット企画

ひらま ゆうし
平間 裕士パンフレット企画長
クリエイティブデザイン学科 3年

今年の大学祭テーマ「GIFT」に合わせポスター、パンフレット、HPを製作しました。さまざまな方々にご覧になっていたようで、本番はたくさんのお客さんがご来場くださいました。多くのお客さんが、笑顔になっていく様子がうかがえ、今年も大成功に終わることができました。

一般企画

かわむら たかのり
川村 隆紀一般企画長
情報通信工学科 3年

今年は東日本大震災の影響もあり準備に遅れなどが出てしまい、心配は山ほどありましたが、各学科、サークル、北海道工業大学の皆さまのご協力のもと大学祭の屋台・展示企画を盛り上げることができました。ご来場者の皆さまにも楽しんでいただけたと思います。

祭飾企画

もりむら ゆうき
森村 祐生祭飾企画長
クリエイティブデザイン学科 3年

今年の工大祭は八木山・長町両キャンパスでの同時開催で装飾も増え例年より大変でしたが、私は今年の第36回工大祭「GIFT」で最高の仲間たちに巡り合えたことに感謝しています。思い出という「GIFT」をくれた仲間へ、ありがとうございました。

幼稚園企画

さとう たくみ
佐藤 拓実幼稚園企画長
クリエイティブデザイン学科 3年

今年の工大祭の幼稚園企画では、例年以上に園児の皆さんや保護者の方々に好評をいただきました。

今年から導入した企画でもスタッフと園児との交流を深めることができ、「GIFT」というテーマ通り楽しさというものを「GIFT」できたと思います。

総務・野外企画

もとき こう
元木 宏総務・野外企画長
建設システム工学科 2年

フリーマーケットは、出店数が少なかったものの占いのように列を作るほど人気のでたブースもありました。林家久蔵師匠の落語寄席は今年も大好評で、師匠の熱のこもった話ぶりに会場の皆さんはおおいに楽しんでいました。

経営コミュニケーション学科 海外語学研修レポート



フリーマーケット



海外で奮闘した 学生たち

さとう あすか
佐藤 飛鳥

経営コミュニケーション学科 講師



経営コミュニケーション学科が主催する海外語学研修では、オーストラリアの大学での英語学習を中心に海外生活（ホームステイ、食事、買い物、交通）を体験します。また、「プロジェクトワーク」ではマーケティング論の知識や事前学習を活かし、現地のフリーマーケットで日本製品を販売して利益を寄付しました。学生は異文化でのコミュニケーションをとるために必要な知識を事前に学び、現地のワークではより理解が深まったと思います。参加学生は2週間の海外生活の経験から日本人としての自分を見つめ直すとともに、積極性が増すなど、学生自身の付加価値を高めることにつながりました。研修には他学科の学生も参加可能です。今回はMC学科6名、他学科3名の合計9名が参加しました。

販売活動の苦心

おさだ こう
長田 剛

経営コミュニケーション学科 3年



プロジェクトワークでは、オーストラリアでフリーマーケットを通して日本の文化を伝えました。その際マーケティング論のSTP・4Pという方法を使いターゲットや値段、市場性などを考えて利益が出るように販売計画を立てました。経営を学んでいる以上、商売では利益を出すことが重要です。そこで私たちは日本の文化を象徴し、利便性もある「箸」と「手ぬぐい」を販売することにしました。日本ではないので販売のために、現地の物価やニーズ、市場性について調べ、価格や販売方法を決めました。オーストラリアについて調べたときに日本文化への関心が高まっていることを知り、案外簡単に売れるのではないかとも思いました。しかし実際に販売してみると、箸の普及率が予想以上に高くとても大変でした。そしてフリーマーケットでの接客や研修先でのプレゼンを通して感じたことは、言葉の重要性です。当たり前ですが商品の説明をするにしても、プレゼンをするにしても言葉がわからなくては何も伝えることができないからです。この貴重な経験をこれからの生活に生かしていきたいと思います。

人とのふれあい

かとう のぞみ
加藤 希美

クリエイティブデザイン学科 3年



オーストラリアでの海外語学研修は一人一人ホームステイをし、学校に通います。はじめての慣れない土地で2週間を過ごすことは、少し不安でした。

しかし、現地の人々はとても友好的で、英語が通じない状況でも一生懸命に理解しようとしてくれるのです。

近所のスーパーにあるアイスクリーム屋さんには、その前を通ると働いている青年が笑顔で手を振ってくれました。豪雨の次の日、バス停でバスを待っていると、見知らぬ親子が乗った車が目の前に止まりました。雨のせいでバスが走っていないことをわざわざ教えてくれるためでした。人々には明るさや優しさが溢れていました。きっと、あの親子に教えてもらわなければずっとバスを待っていたと思います。

この2週間で感じたことや学んだことは数えきれません。日本では決して体験できないようなこともたくさんありました。自分の知らない世界や物事はたくさんあり、それらを知り、体験することは大事だと感じた2月下旬からの2週間でした。

本学と協定している3大学

本学は現在、広州大学(中国)、泰日工業大学(タイ)、中原大学(台湾)の3大学と学術交流協定を締結しています。毎年、学生や教員の相互訪問、主に短期の相互留学で国際交流するほか、学生の海外視察など視野を広げる機会を作っています。

大学名 (英語表記)	広州大学 Guangzhou University	泰日工業大学 Thai-Nichi Institute of Technology	中原大学 Chung Yuan Christian University
協定	東北工業大学と広州大学との学術交流に関する協定	泰日工業大学と東北工業大学との学術交流・協力協定	学術交流協定
協定締結年月日	2002年4月22日(中断期間あり)	2007年10月24日	2009年6月8日
所在都市	中国・広東省広州市	タイ・バンコク市スワンルワン区	台湾・桃園県中壢市
特色など	広東省と中国第3の都市・広州市が公立私立の既設大学を併合し、共同設置した総合大学。26学部、69学科があり、学生数は2万人超といわれる。大学が位置する「大学城」は広州市南部の川の中洲をまるごと学園都市にした地域。総面積4.3km ² の「大学城」に、広州大学はじめ中山大学、華南理工大學など10大学のキャンパスが広がる。	2007年6月開学の新設私立工業大学。工・情報・経営管理の3学部からなり、約4千人の学生が学ぶ。設立当初からタイの人材育成、産業技術情報の普及・促進、日・タイ友好促進のため多くの事業を展開、「日本型ものづくり大学」を目指している。東北工業大学とは、2007年の協定締結以来、相互の学生派遣やシンポジウム共催などの交流を行っている。	1955年10月創立のキリスト教系私立総合大学。理、工、商、法、人文教育、電気、設計など7学部28学科を有する。1980年8月、現大学名となった。学生数は1万6千人。卒業生は9万人を越す。昨年、本学建築学科学生が2ヶ月間短期留学、設計実習などで交流を深めた。国際交流の推進に力を入れている。

留学生の声



充実した日々

ジミー・ジェラー・パライゾン
(ハイチ共和国)
通信工学専攻 博士(前期)課程2年

研究分野はバーチャルセルラネットワーク(VCN)です。経験豊かな先生のご指導のもと、国内外の学会に論文を投稿するなど充実しています。修士修了後は、博士課程で研究を続けようと思っています。

仙台は伝統的な日本文化や美しい自然に触れられるよい街です。私のホストファミリーも、よくそのようなイベントに連れて行ってくれます。

当初は夜遅くまで研究室にいたことが多かったのですが、震災後は早めに帰るようにしています。それほど地震はこわくありません。でも外出時は電気やガスの始末に気をつけ、家には非常用の食料と水を常備するようになりました。それ以外には生活はほとんど変わっていません。



震災で感じたこと

こしょう
顧 静
(中華人民共和国)
安全安心生活デザイン学科 2年

今回の震災を体験し、私は周りの人々から多くのことを学びました。

地震の直後、私はパニックに陥りましたが、幸い近くの人たちがみな冷静で、落ち着きを取り戻すことができました。友人が「避難所に行きましょう」と誘ってくれたとき、最初は食料や水が確保できるかという疑問に加え、我々外国人に関心を持ってもらえるかどうか心配でした。しかし行ってみると、そんな心配は無用だとわかりました。そこでは国籍などに関係なく、人々が助け合い、励ましあっていたからです。私はこれまで日本人は他人に情がないと思っていましたが、今ようやく日本人を理解しはじめたようです。彼らは一見冷たいようですが、心の中は温かく、非常に強いと感じます。

研究室を越え、互いの専門性を繋げながら、 日常不断の生産と暮らしをととのえる

今回の東日本大震災は、個人や地域それ自体のこれまでの価値観を大きく変えるくらいエネルギーを持つものでした。

当然のことながら、「使い手の立場に立つデザイン」を目指す、本学科が取り組まなければならない課題も急浮上しています。被災した地域医療施設や仮設住宅、地場産地からの要請などにどのように応えられるかです。

今研究室には、研究室を越えた「統合する」センスが望まれているのが、現地からひしひしと感じ取れるのは確かなところ。学生と教員との連携づくりもこのような機会でない限り、できないとも確信しています。



南三陸復興支援みやぎ「道の駅」フェスティバルへのボランティア参加



仮設で生活する方のニーズにあわせたカスタマイズ支援



高齢者施設での生活者と学生との交流

学生へのメッセージ



伊藤 美由紀

安全安心生活デザイン学科 准教授

「感じる力」が持てる絶好の機会を得られたことは確かです。私たちの立場は、常に相手(使い手)の目線に立ったデザインを目指すことです。人それぞれにはライフスタイルがあり、相手の心を通して、より「質」の高い生活の場を構築するかが鍵となります。

学生の声

佐々木 彩

安全安心生活デザイン学科
菊地研究室 4年

被災現場を実際にみて、その大変さは建物や医療スタッフの方たちや患者さんの様子からも捉えることができました。看護師さんや理学療法士さんからの現場の声と私たちが学んできたことを活かしてより良い空間を提案したいと考えます。現場の中に入っていくと見えないものも多くあることを、今回の調査で理解できたことは確かです。生活者の立場に立つデザインとは、まさにこのことだと学びました。

渡邊 るい

安全安心生活デザイン学科
菊地研究室 4年

これまで農・商・工・観光の連携を推し進め、地域活性化に取り組んでいた地域も、今回の震災で客が減るなどして、影響が出ていることを知りました。地域に人を呼ぶための一つとして地域活性化とリハビリテーションをうまく組み合わせられないかなど、新たな取り組みを地域の方たちと意見交換をしながら進めていくことはとても勉強になります。自分のライフワークとして何を目指すべきかも見えたような気がします。

中野 優紀

安全安心生活デザイン学科
伊藤研究室 4年

今回の震災を体験して、日頃からの人とのつながりがとても大切だと実感しました。高齢者が生活する施設や仮設住宅などの現場に行き、支える側と支えられる側のやり取りを見ていると、人には一人ひとりいろいろな生活背景や人生背景があり、それを理解することが使い手にとって良いデザインを提供するために重要だということを知りました。実学とはこのようなことだと改めて感じました!

先生のホンネ⑨ 教室では語れない学生へ向けた先生のホンネを聞きました。

皆さんの良さを大切に

なかがわ ともこ
中川 朋子
情報通信工学科 教授



最近キャンパス内で、学生の皆さんの明るい挨拶に出会うことが多くなってきたように思います。人に対する礼儀正しさや、自分より優れた人もいるはずという謙遜の心など「日本人の良さが残っている」というのが、東京から赴任してきた時の私の感想でした。最近またその感を強くしています。人としての優しさを感じます。

学会などで世界に出てみると、皆さんのような気遣いをしてくれる国も多く、むしろ世界標準かもしれないと思うようになってきました。「迷惑かも」と自粛せず、皆さんのやり方で自信を持って人に接してほしいと思います。



ドイツの学会でポスター発表中



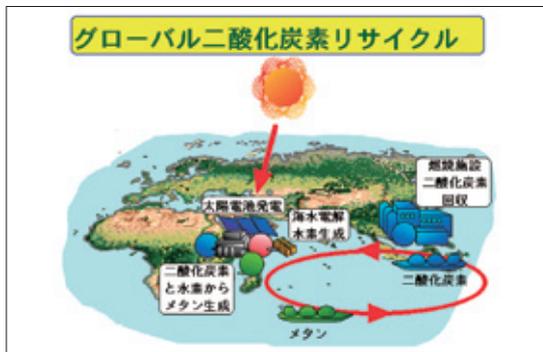
研究室の芋煮会風景

学生の卒業研究

かとう ぜんた
加藤 善大
環境情報工学科 准教授



毎年、学生と一緒に研究して思うことは、彼らが純粋な目をもって熱心の実験に挑んでくれることです。実験で興味を持ったこと、また、実験上必要な知識を吸収するスピードに感心します。3月11日午前中、学生と実験したのち、震災に遭いました。その時の実験データをもって、今年度、アメリカのボストンで開催される220th Meeting of Electrochemical Societyにてその学生と連名で発表することとなりました。卒業論文発表後も、卒論テーマを継続して行ってくれたことに感謝します。下の写真は、その時の酸素発生電極の試料です。



「グローバル二酸化炭素リサイクル」の概念図



海水電解のための酸素発生電極の試料

東北工業大学高等学校 50周年記念式典開催

50周年記念式典、 ひとつの節目と新たなスタート



東北工業大学高等学校50周年記念式典がさる10月20日(木)江陽グランドホテルにおいて、盛大に行われました。

記念式典には教育関係のご来賓、旧教職員、生徒及び教職員ら1200名が出席し、校長式辞、理事長挨拶の後、歴代校長を始め本校発展に尽力いただいた6名の方々に感謝状が贈られました。当日は高校の将来構想についてのプレゼンテーションが行われ、50年の歴史の重みとともにこれから創られる歴史への決意を新たにしました。

その後、本校第9期生でJR東日本仙台駅長の渡邊英明氏により「駅づくり・まちづくり・そして人づくりへ」と題した記念講演が行われ、本校のスローガン『「未来を創る人」をつくる』と重なる講演に生徒も感ずるところがあったようです。引き続き、同じ会場で祝賀会が行われ、あらためて節目の日を迎えたことを喜びました。

「4大学合同就職説明会in東北工業大学」 「就活キャンパスin東北工業大学」を開催

24年3月卒業予定者と既卒者を対象に合同企業説明会を学内で2度開催しました。説明会には、2011年採用継続中の企業が多く参加し、人事担当者から企業概要や採用情報などについて説明を受けました。2日間で延べ325名の学生が参加し、学生と企業の貴重な出会いの場になりました。

「就活キャンパスin東北工業大学」は、10月7日、八木山キャンパス体育館を会場に開催されました。今回は本学採用実績のある企業など約80社のブースでいっぱいになり、特に建設土木系企業が目立ちました。

学内の企業説明会は本学に好意的な企業の参加が多く、今回も内定者が出ています。また9月9日の「4大学合同就職説明会」本学会場でも、数人の内定者が出ました。

学内の慣れた場所での企業説明会では、学生の皆さんは緊張を少しでもやわらげて企業の方たちと話ができます。学内の「就職説明会」には積極的に出るよう心がけてください。



インターンシップ

きっかけ

受入れ先:通研電気工業株式会社(9/7~14)



今回のインターンシップでは、WLC、スイッチの設定、UTPケーブル作成、ルーティングの実習、スループットの検証などを行いました。実習で行うことは、すべて初めての体験であり、多少戸惑いもありました。それにより、自分の勉強の足りなさを実感し、これからの勉強への意欲が高まりました。

実際に職場で業務を体験することにより、仕事というものがどういうものなのかより明確になりました。そして、自分自身の興味が一層深まったため、就職先の企業を選ぶきっかけにもなりました。これからの就職活動は、この経験を生かし、積極的に取り組みたいと思います。

希望への一歩

受入れ先:SLOW HAND株式会社(8/18~31)



インターンシップをさせていただいたのは、主に家具の設計・製作・施工を行っている会社です。JW_CADの操作や、家具の知識、CADで家具を描き施工図としてまとめる作業、工場見学、現場見学をしてきました。初めての体験ばかりで戸惑う場面もありましたが、全てが興味深く、大学の授業だけでなくさまざまなことを勉強しなければならないと感じました。今回のインターンシップを通して、技術的な面はもちろん、人とのつながり、人間性の大切さを強く実感しました。また、将来の方向性を確認するとともに学習の意欲が高まりました。この経験は、今後の学生生活や就職活動への大きな一歩になると思います。

スケジュール

時期	行事
5/23・25、6/23	インターンシップ説明会
7/4	参加登録票提出・マッチング 参加意志確認
7/29、8/1	事前研修会
夏期休業期間	インターンシップ実施
10/27	インターンシップ実施報告会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

参加人数 (平成23年度)

単位:人

工学部	2年生	3年生	4年生
情報通信工学科	0	4	1
建築学科	0	2	0
建設システム工学科	1	1	1
環境情報工学科	0	1	0
合計	1	8	2

ライフデザイン学部	2年生	3年生	4年生
クリエイティブデザイン学科	1	22	0
安全安心生活デザイン学科	0	23	1
経営コミュニケーション学科	0	12	0
合計	1	57	1

大学院	
土木工学専攻	1
デザイン工学専攻	1
合計	2

大学院で学ぶ

大学院の特徴…少人数徹底指導と経済支援

本学大学院は平成4年に設置、これまでの修了者数は約500人になります。修了者は大学院で高度な専門知識・技術を習得し、東北地方を中心に活躍しています。本学大学院は、学生数に比べ教員数が多く、少人数指導が徹底しています。授業も少人数で研究面でも指導教員から研究、専門知識など十分な個別指導を受けることができます。経済面での支援の本学独自RA制度(研究補助者制度)は、全ての大学院生に教員の研究補助者として活躍してもらい、毎月2万円を支給します。学部 비해、より高度な知識・技術、人間力を身につける環境が満たされています。

ライフデザイン学研究科デザイン工学専攻

大学院の新しい専攻として、「ライフデザイン学研究科デザイン工学専攻」が、平成24年度に長町キャンパスで発足します。

この専攻は、主にライフデザイン学部の学生の学習研究意欲に応じて、ライフデザイン学の専門分野において、創造性豊かな優れた研究活動をしたり、今日の知識基盤社会を支える高度で知的な業務に従事したりするのに必要な、学術と技術を養うことを目的にしています。

専攻の中には4つの分野がありますが、それらはいずれも、具体的なモノづくり、カタチづくり、システムづくりの理論と実践活動を通して、将来、人々の心と生活を豊かにすることができる人材を育てようとしています。

大学院修了生の声

大学院で獲得したこと

つるが ゆうた
敦賀 雄大
株式会社日立製作所 デザイン本部
情報ソリューションデザイン部 勤務
デザイン工学専攻 博士(前期)課程
両角研究室 2007年修了



私は現在、デザイナーとしてデータセンターやエネルギーのマネージメントをするソフトウェア(道具)の画面デザイン(以下、「デザイン」)に取り組んでいます。大学院で獲得したこと、それが今にどうつながっているか2つお伝えします。

1.自分が楽しいと思うことを説明する

「研究」とは、自分が楽しいと思ったことを探求し、その成果を説明することと考えています。自分が何を楽しいと思ってデザインに取り組んでいるのか、それを説明する能力を獲得しました。今は社会に向けてその能力を発揮しています。

2.「学会」という社会とのつながり

研究成果を自ら発信することを通して、デザインを探求し、いいものをつくりたい、と思う人が集まる社会としての学会。このつながりを得ることができました。学会での活動は今でも続け、新鮮な刺激を受け、楽しみながら自分の可能性の領域を広げています。

大学院生の声

大学院での生活

くまさか ますたか
熊坂 增高
工学研究科電子工学専攻
小林研究室



私の所属している研究室では光を用いた医療機器の開発を行っております。研究テーマはあらゆる生物から放出される生物光子と呼ばれる極微弱な光を検出し、それを医療機器の開発に応用することです。生活自体は学部時代と特には変わらず、講義が少ない代わりに実験や自習をする毎日です。大学院ではより専門的な分野を学習してそれを更に応用した研究活動を展開するのですが、実験の本質や研究そのものの理解が不十分なまま過ぎてきました。大学院生活も後半に入り、限られた時間を有効に活用して、少しでも理解を深めたいと考えています。大学院でもっと自分を高める時間が欲しいという方はぜひ進学しましょう。

工学研究科

電子工学専攻

博士前期課程/博士後期課程

- システム分野
- センシング分野
- デバイス分野

通信工学専攻

博士前期課程/博士後期課程

- 光通信工学分野
- 電磁波動工学分野
- 基礎情報工学分野
- 情報処理工学分野

建築学専攻

博士前期課程/博士後期課程

- 建築史・意匠分野
- 建築・都市計画分野
- 建築環境工学分野
- 建築生産工学分野
- 制振構造学分野

土木工学専攻

博士前期課程/博士後期課程

- 土木材料・構造工学分野
- 地盤工学分野
- 水圏の利用と防災分野
- 土木計画学分野
- 地域の水循環分野

デザイン工学専攻*

博士前期課程/博士後期課程

- 産業デザイン計画分野
- 環境造形計画分野
- 福祉デザイン計画分野
- 生活デザイン科学分野

※平成24年4月よりライフデザイン学研究科に移行予定。これに伴い、工学研究科としては募集停止。

環境情報工学専攻

博士前期課程/博士後期課程

- 環境応用化学分野
- 環境マネジメント分野
- 環境システム動態学分野
- 光レーザー・リモートセンシング分野
- 水質環境分野
- エネルギー工学分野

ライフデザイン学研究科

平成24年4月開設予定

デザイン工学専攻

博士前期課程/博士後期課程

ライフデザイン学部(クリエイティブデザイン学科、安全安心生活デザイン学科)に基礎を置く、デザイン工学専攻が開設される予定です。ライフデザイン学について、より深く専門的に学ぶことができます。

学費

初年度における納入金は下表の通りです。

※本学の卒業生は、入学金と設備負担費が免除されます。

単位:円

	本学卒業生	本学以外の入学者
入学金		250,000
授業料	900,000	900,000
設備負担費		260,000
学生諸費用分担金	20,000	20,000
学生災害障害保険	1,750	1,750
合計	921,750	1,431,750

補助・奨学金

研究補助費

大学院生全員に支給

年額 24 万円

+

特別奨学金

年額 24 万円

+

公的・私的な各種奨学金制度

大学院には奨学生制度があり、各専攻でトップの成績を修め、他の模範と認められる院生6名に対して特別奨学金(年額24万円)が給付されます。その他、日本学生支援機構(旧日本育英会)を始め、多くの公的、私的な奨学金を貸与される機会があります。以上に加えて本学の大学院では平成20年度からすべての大学院生に対して次のような、他大学にはあまり例のない経済的な支援をしています。

東北工業大学は大学院に在籍する大学院生を対象とし、指導教員の研究補助(リサーチアシスタント)を行う場合、1人月額2万円を支給します。



中間報告会



活動紹介パネル展示

「地域復興のための共同プロジェクト」中間発表

東北工業大学では、東日本大震災からの復旧・復興に向けて本学独自の復興計画を提言し、地域貢献活動を行っています。それら活動の中間報告と、活動の紹介パネル展示を行いました。

一番町ロビーで9月12日(月)に開いた「第48回Tohtechサロン」で、「東北工業大学が発進する地域復興のための共同プロジェクト」の活動紹介と中間報告が行われました。

「共同プロジェクト」は、東北地方に大きな被害をもたらした「東日本大震災」からの復旧復興と震災を踏まえた東北の将来像の再構築を目指し、大学が独自に地域復興のため自治体や各種団体などと連携したプロジェクトです。

本学では地域貢献を積極的に進める一環として学内公募した新技術創造研究センター枠8テーマ、特定研究枠9テーマ、合計17テーマのプロジェクトで復興支援の活動をしています。

今回は、その中から「建築学科復興支援室を核とした継続的・地域再生支援プロジェクト～目の届きにくい小地域等の継続的復興支援について～」(代表:建築学科・渡邊浩文教授)と、「気仙沼市南町および南町海岸復興プロジェクト～防潮堤のないまちづくりの提案について～」(代表:都市マネジメント学科・今西肇教授)の2テーマについて、代表の渡邊、今西両教授がそれぞれのプロジェクト概要を説明しました。

渡邊教授は、被災した沿岸部ではその被害の甚大さから広域にわたる地域が孤立、壊滅状態となり、たくさんの支援機関による

さまざまな支援やボランティア活動で復旧に全力をあげていることや、中にはその被害の大きさは裏腹にあまり報道もされずに孤立する地域など、地元が継続的に支え続けないと復興は厳しいことなどが報告され、あらためて被害の大きさ、深刻さを認識させられました。

今西教授は、住民とともに新たな視点で行っている気仙沼市南町地区周辺の復興まちづくりでの提案活動を紹介。防潮堤に頼る防災の街づくりではなく、この震災を出発点と捉え、命を守りながら新しい街づくりへ発想を切り替えようという活動を報告しました。

東日本大震災では、宮城県内はもとより東北地方を中心に太平洋沿岸部は甚大な被害を受けました。千年に一度といわれる大災害から復興するには、産学官、地域の枠を超えた力の集結が必要です。

本学では、今回紹介した2テーマ以外にも「都市再生」「産業振興」「調査分析」「コミュニティ再生」の4分野で15のプロジェクトが活動しています。未曾有の災害から東北が復興するために、大学、地域、行政などが一体となってこの「共同プロジェクト」を進めています。



北海道工業大学との交流会報告

みずの ひまし
水野 尚 (学生部長 経営コミュニケーション学科 教授)

東日本大震災により、第25回対北海道工業大学総合定期戦は中止となりました。しかし、8月24日に北海道工業大学の苫米地学長、高島副学長はじめ、学生を含めた9名の皆さんが来仙、交流会を開催しました。交流会では、北海道工業大学の協学会(本学の学友会に相当)から、総合定期戦に関係する本学14クラブに義援金が贈呈されました。次に苫米地学長に本学の震災被災へ見舞いの言葉をいただき、これに対し本学側からは震災にどのように対応したかを報告いたしました。このなかで本学学生が紹介したボランティアの実体験にもとづいた話は、出席者に強い感銘を与えました。



平成23年度 父母懇談会開催

本年度の父母懇談会は、3月11日の東日本大震災の影響で開催が危ぶまれましたが、学内外の開催を強く望む声に後押しされ、毎年の6月開催を9月に延期して行われました。

今回、講演会は開催できなかったものの、9月3日(土)の青森・秋田に始まり、17日(土)の仙台まで計10会場で開催することができました。

震災のためか各会場とも参加者は昨年より若干少なかったようです。しかし、いつものように熱心に質問・相談する姿が会場のあちこちで見受けられました。仙台会場では面談の待ち時間を利用した各学科の施設案内や学生制作による展示作品の見学などもあり、参加者は子女の大学生活に想いをはせ、感慨深げに見入っていました。



硬式野球部 第37回千葉工業大学定期戦を振り返って

はなや しょうた
花屋 翔大 (硬式野球部マネージャー 環境情報工学科 2年)

第37回千葉工業大学との定期戦が、8月20日(土)に東北工業大学野球場を会場に行われました。試合は、3回に千葉工業大学が四死球で出たランナーを確実に返して2点を先制。本学は4回に長短打を絡め2対3と逆転しましたが、5回以降千葉工業大学の連打と本学の失策から5回に3点、7回に2点、8回に1点の追加点をあげられ、8対3で惜敗しました。

試合後には懇親会が開かれ、両大学の親睦を深めました。仙台六大学野球秋季リーグ戦に臨む課題も見つかり、とても充実した定期戦になりました。

平成23年郵政福祉教育振興基金奨学生

今年度の郵政福祉教育振興基金奨学生が決まりました。選ばれた皆さんのさらなる活躍を期待しています。

安全安心生活デザイン学科 3年

経営コミュニケーション学科 4年



さとう りょう
佐藤 諒
好きな言葉:
努力に勝る天才なし



おおつき
大槻 くるみ
好きな言葉:
人事を尽くして
天命を待つ

平成23年度公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金奨学生

今年度の公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金奨学生について、本学より学部・大学院あわせて4名の学生を推薦しましたが、選考の結果2名の学生が奨学生として採用されました。今後の活躍を期待しています。

経営コミュニケーション学科 3年

電子工学専攻 1年



おいかわ かずき
及川 和希
好きな言葉:
肝心なところで奮迅!



せの たかひろ
瀬野 敬広
好きな言葉:
感謝を忘れない



デザインシンポジウム

クリエイティブデザイン学科

社会の価値観やシステムが急激に変化し、デザインに対する考え方や捉え方も変化しています。このような世界の動きの中で、クリエイティブデザイン学科がどのような方向に進み、社会の中でどのような役割を果たすべきなのかを考える「Design Symposium 2011 生み出そう、これからのデザイン」を開催しました。

本学科教員と非常勤講師でもある現役デザイナーがパネリストとなり、これからのデザインやデザイン教育に関する課題について発表を行いました。それぞれの現場における問題点や、今後の展開などの討論から、クリエイティブデザイン学科に求められている方向性を再確認することができたのではないのでしょうか。

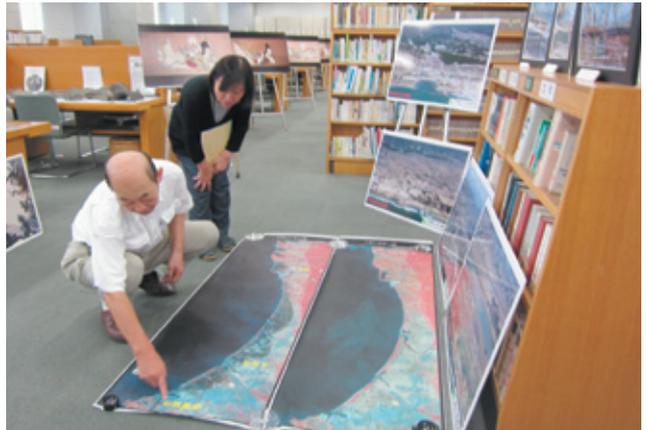
会場からもたくさんの発言があり、今後のデザイン教育を考える上で有意義なシンポジウムになったと思います。



アカデミック・インターンシップ

大学院 工学研究科

8月9日から11日の3日間、宮城県仙台向山高校20名の2年生が、「学問とつながる～大学を通して～」を目的としたアカデミック・インターンシップに参加、大学院の電子工学・通信工学・建築学・土木工学の4専攻で、教員や大学院生と直接接し、それぞれの専攻の特徴を生かした研究や講義、体験など、日常の授業とは異なる経験をしました。この経験で、“大学とはどのようなものか”を感じとり、今後の自身の将来への目標の幅を広げる一助となればと思います。



樹木医による東日本大震災写真展

図書館長町分館では、8月下旬から10月中旬まで東日本大震災写真展を開催いたしました。

展示内容は、樹木医・おおた せいいち太田成一氏が実際に被災地を訪れ撮影された沿岸の写真約40点と、被災地の航空写真(国土地理院)や衛星写真(宇宙航空研究開発機構)など計約70点です。

津波で破壊された海岸林などの写真を通じて、人々が今まで培ってきた生活や文化・歴史が消えていく被災地の様子が映し出されました。「今後の復旧・復興のあり方を考える機会になれば」と太田氏は度々足を運び説明や質問に答えていました。

本学の学生をはじめ父母、市民、教職員などたくさんの方が、さまざまな思いを胸に熱心にご覧くださいました。



科学研究費補助金公募要領等説明会

新技術創造研究センター

10月5日(長町キャンパス)と7日(八木山キャンパス)、平成24年度科学研究費補助金(科研費)公募要領などの説明会を開催しました。説明会では新創研科研費担当者が公募要領や申請書の書き方などについて説明、その後、公的科研費の不正防止について推進委員会から説明がありました。

また、本学での申請件数の増加と採択向上を図り、今年度より導入した科研費アドバイザーシステムの概要と利用方法についても紹介しました。11月初旬には、このシステムを利用し、希望者を対象にした外部科研費アドバイザーによる添削・面談などの助言・提言が行われ、申請者からは高い評価を受けました。



広瀬川1万人プロジェクト

こんどう ゆういちろう
近藤 祐一郎
 (環境情報工学科 准教授)

9月24日(土)、広瀬川1万人プロジェクト第12回流域一斉清掃活動が行われました。この催しは同実行委員会が年二回開催している大規模な環境活動です。上流の作並会場から下流の閑上大橋会場

までの12会場で行われました。本学環境情報工学科1年生は太白大橋会場を担当、企業や一般市民も含め117名が参加し、61袋分の投棄ゴミを回収することができました。

当初はおぼつかない様子の1年生でしたが、いざ清掃が始まると一生懸命で、和気藹々とゴミを拾っていました。清掃後には「面白かった」「参加者が多くてよかった」「気持ちよかった」などの意見を耳にし、清掃活動をととしての成長を感じました。台風一過のすがすがしい日とに恵まれた一日でした。



「グラフィックメッセージ」制作体験

クリエイティブデザイン学科 篠原研究室

本研究室学生9名が東一番丁の繁華街に壁面アートを制作しました。

サンモール商店街を元気にしたいとの要望を受けての制作活動で、東日本大震災復興の願いを込めた「HOPE」の文字を描きました。

工事現場の壁面の「キャンパス」に、赤と黄色の直線的なモチーフの中から文字が浮かび上がるように工夫、作業には8時間かかりました。

「メッセージ」は通りを行く人々の目を楽しませてくれ、学生たちもこの制作を通して、希望を胸に刻むことができたのではないかと思います。



東日本大震災追悼集会

東日本大震災で本学では在学学生5名、入学予定者1名の計6名が亡くなりました。犠牲になった学生、入学予定者と卒業生を悼む追悼集会が、後期授業の始まった9月26日に八木山キャンパスで厳かに行われました。

追悼集会には、亡くなった3名の学生の両親や家族はじめ学生、教職員など約350名が吹奏楽部の演奏が流れるなか参列、黙祷を捧げました。

集会では、沢田康次学長が「この地震で起きた不条理なできごとを説明できる言葉をまだ見つけていません。事があまりに巨大で、ふだんの感覚を超えているが、苦しさをこらえているだけではいけない。不条理なできごとの本質を理解しようとするところこそ、亡くなった学友と卒業生への真の哀悼で私たちの責任です。不条理を理解解明する長いプロセスを、学友たちはわたしたちと一緒に生き続ける」と参列者に訴えました。

学生・友人代表として、建築学科3年の猪股亮介さんが亡くなった後輩の思い出と無念さを言葉に詰まりながら語り、亡くなった人の分まで全力で生きていくことを誓いました。また卒業生の中島敏さん(ZIMA DESIGN代表)は同社に勤務中に犠牲となった2名の本学卒業生の死を悼みました。

岩崎俊一理事長は、若い諸君の志をきちんと伝えていくのが我々残されたものの役目と哀悼の意を表し、会場の出席者も前を向いて毎日を大切に過ごすことを誓ったようでした。

学生・院生の震災被災状況

(平成23年11月1日現在)

区分	被災状況		その他*	計
	家屋等被災			
	全壊	大規模半壊・半壊		
学部学生	124名	249名	7名	380名
大学院生	6名	7名	—	13名
合計	130名	256名	7名	393名

※その他は、父母等家計支持者死亡、福島原発関係

PROFILE

建築学科
許雷 准教授

を

建築学科
渡邊 浩文 教授

が 紹介



明明白白我的心

本学国際交流で大活躍中の許雷先生は、中国・無錫市のご出身です。同済大学大学院修士課程を修了後、実務経験を経て早稲田大学大学院に進学、博士学位を得、同大にて助手・講師を勤めた後、2007年に本学に着任されました。建築学科および安全安心生活デザイン学科で都市・建築・住宅の設備をご担当されていますが、ご研究においてはBIM: Building Information Modelingの建築環境・設備分野への拡張(環境シミュレーションなど)にも取り組まれておられます。日本滞任十年超の許先生は最近では東北の地酒を嗜まれ、ときに興に応じて美声をふるわれてもおられます。



トピックス



七夕まつりへの参加

荒井 俊也(クリエイティブデザイン学科 教授)

震災のため中止されるかと思った仙台七夕祭りですが、実施が決まり今年もクリエイティブデザイン学科2年の有志が七夕飾りを制作しました。今年は2年生に加え1年生の有志の参加があり来年に向けて良い布石になったと思います。大学が4月末まで休講措置をとったため授業がお盆前まで長引いたので、例年よりもかなりタイトなスケジュールの中で制作することになりました。祭り当日の七夕飾りの上げ下ろし作業も2年生が授業と重なったため、急ぎよ4年生がサンモール商店街に出向き作業に当たりました。思いがけず異学年連係プレーでの参加となりました。



トポステンポ

トポステンポは、文科省の予算を受けて昨年度からスタートした、工大オリジナルのお店です。「自分にできること」「誰かにしてほしいこと」を店内の掲示板に貼りだし、それを見た他の学生が手助けを申し込んで交流する、という助け合いを斡旋しています。工大生、教職員なら誰でも登録することができ、昨年度は144件の取り引きが行われました(もちろん、すべて無料です)。それ以外にも、多方面のゲストを招いた座談会や「しゃべり場」、各種ゲーム大会など、さまざまなイベントを用意しています。ホームページを随時更新していますので、ぜひ一度ご覧になってください。

新任教員紹介(2011年10月1日付)

ライフデザイン学部
経営コミュニケーション学科 准教授

二瀬 由理

研究分野は認知心理学です。人の心の仕組みをさまざまな側面から調べています。

庄子晃子教授が
宮城県教育委員に

ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科の庄子晃子教授が宮城県教育委員に任命されました。宮城県教育委員会は委員6人で構成、任期は4年です。

庄子教授は美術史、科学技術史が専門。ブルーノ・タウト、国立工芸指導所の研究者として広く知られます。東日本大震災や少子化による児童生徒数減少のなか、教育行政に携わることになります。庄子教授の活躍が期待されます。

工大広報について

「工大広報」は、本学の情報をお伝えするために、年4回(春・夏・秋・冬の各号)発行してお届けしています。学生の皆さんは、学内の下記の場所に、いつでも持ち出して読むことができるように用意してありますので、活用してください。また、「工大広報」は本学のホームページでもご覧になれます。URL: <http://www.tohtech.ac.jp/>

- 八木山キャンパス…1号館1階 tohtech LOUNGE/3号館玄関付近/4号館食堂
5号館玄関付近・学生ラウンジ/6号館3階談話室/10号館1階 tohtech FORUM
- 長町キャンパス…3号館1階学生談話室/学生ホール
- 東北工業大学 一番町ロビー

本誌に関するご意見・ご感想を
お待ちしております。

〒982-8577
宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1
東北工業大学 広報室
TEL:022-305-3145 FAX:022-305-3146
E-mail: kouhou@tohtech.ac.jp